

インターネットオークションにおけるトウキョウサンショウウオの販売状況から「特定第二種国内希少野生動植物種」指定の効果を検証

照井滋晴（NPO 法人環境把握推進ネットワーク-PEG）と、徳田龍弘（ばいかだ WILD-PHOTO）からなる研究グループは、「特定第二種国内希少野生動植物種（以下、特定第二種）」トウキョウサンショウウオの 2009 年 1 月から特定第二種への指定後である 2021 年 3 月までのインターネットオークションにおける販売実態を調査し、特定第二種指定の効果を検証しました。

現在、トウキョウサンショウウオは、宅地化や工業団地の造成、道路建設などの開発による環境改変の影響により生息地の消失や生息環境の悪化が生じています。加えて、外来種による捕食により個体数を減らしています。近年では、販売目的での捕獲も確認されており、乱獲による個体群への悪影響も懸念されていました。このような背景から、環境省は、2019 年 12 月 25 日に希少野生動植物種専門家科学委員会で本種を特定第二種国内希少野生動植物種に指定する案を提示し、2020 年 2 月 10 日に種の保存法に基づく「特定第二種」に指定され、販売目的の捕獲が禁止されました。

（1）調査の結果、2009 年 1 月から 2021 年 3 月までの 12 年 3 か月の間に卵嚢から成体までの様々な成長段階の計 324 件の実売記録が確認されました。324 件のうち野外採集個体が全体の 7 割以上と最も多く確認され、インターネットオークションで売買されていた本種の多くが野外採集に由来することが明らかになりました。

（2）特定第二種の候補としての発表から指定までの期間に注目すると、この期間に確認された実売数及び件数は、過去の同時期と比べ明らかに増加していました。加えて、この時期に取引されていた本種 1 個体あたりの平均価格についても倍増していました。これは、特定第二種の候補となったことで駆け込みの需要と、それに対する供給が増加し、価格が高騰したことが推測されます。

（3）上記期間に販売されていたのは、2019 年以前に採集した卵嚢あるいは幼生を飼育下で成長させた幼体・亜成体であり、新規に捕獲した卵嚢や個体の販売記録は確認できませんでした。これは、この期間が野外で本種を採集するには不適な季節であったことが要因と考えられます。もし、候補発表から指定までの期間に本種の主要な繁殖期が含まれていたとすれば、成体や卵嚢の乱獲が生じた可能性も考えられ、今回の候補発表から指定のまでの期間は、本種の保全を考えると妥当な期間であったと考えられます。

（4）インターネットオークションにおいて最後に本種の売買が成立した日は 2020 年 2 月

7日であり、特定第二種に指定された2月10日以降確認されていません。この結果から、特定第二種への指定によって、少なくとも表向きの販売は確認されなくなったと言え、第二種への指定には販売を停止させる効果が認められました。

現在、多くの国産両棲類が野外から採集され、実店舗やインターネットオークションなどで販売されており、乱獲による影響が懸念されています。本研究の成果は、今後他の国産両棲類において「特定第二種」指定の是非を検討する際の一助となると考えられます。

本研究は、2021年5月31日に日本爬虫両棲類学会の発行する「爬虫両棲類学会報第2021巻第1号」に掲載されました。



トウキョウサンショウウオの成体

<論文タイトルと著者>

論文タイトル：インターネットオークションによるトウキョウサンショウウオの販売実態
と特定第二種希少野生動植物種指定の効果

著者：照井滋晴・徳田龍弘

掲載誌：爬虫両棲類学会報 第2021巻 第1号 p52-58